

教材の本質をふまえた体育指導のあり方
～器械・器具を使つての運動（遊び）、器械運動を通して～

I 研究の内容

1 研究の具体的内容

- (1) 言語活動を取り入れることにより，器械・器具を使つての運動（遊び），器械運動における思考を高め，さらには技能を高めることにより，目標とする児童の姿にせまれる指導法について研究する。
- (2) 授業案をもとに授業実践を行う。その成果と課題について話し合い，今後の授業や研究に活かしていく。

2 授業研究

2年生 「マット遊び」（器械・器具を使つての運動遊び）

古屋 みゆき 教諭 奥野田小

6年生 「マット運動」（器械運動）

清水 誠治 教諭 日下部小

(1) 授業実践から学んだこと

- ・2本の授業をもとに，授業研究を中心に活動し，テーマに迫ることができた。
- ・改めて学習規律の大切さを学んだ。体育学習ではそれが特によく表れることを再認識した。
- ・デジタル機器等の活用では，指導者が直接見せて指導に生かすことが，現状では一番効果的な方法ということ。今後更に研究・実践していく必要がある。
- ・教材の本質をふまえ，「わかる」こと「できる」ことの達成感を味わわせることを不易のテーマとし，技術論に偏りすぎることなく，発達段階に応じた指導をしていくことが大切である。

(2) 授業実践から，今後さらに研究を深めたいこと

- ・系統性をしっかりと意識，理解して授業にのぞむこと。低学年での，どの動きが

中学年，高学年のどんな技に繋がっていくのか，また，どのような感覚づくりが有効で，効果的なのか今後もさらに研究していきたい。

- ・タブレットの使用の仕方について今後も研究を深めたい。
- ・授業を提供していただく先生の負担を少しでも軽くするよう，研究部の協力や，各ブロックでの授業案検討など行うことができた。今後も，共同研究・組織研究であるという意識のもと，資料の収集などできる限りの協力体制を確立していきたい。
- ・専門性を追求するわけではなく，専門性を専門でない教師が，子どもたちにどのように伝えるかが，大切である。技術講習会など，専門的な技術を学ぶ機会が必要である。

Ⅱ 成果と課題

1 成果

- ・マット運動における系統性，感覚づくりの重要性について，学ぶことが多かった。また，2年間を見通した指導計画をしっかりとたて指導にあたること。
- ・低学年での授業実践ができたこと。理論と技能と楽しさのバランスを考えた実践を見て，学ぶことができた。改めて低学年における感覚づくりの重要性を再確認した。
- ・現状におけるタブレットの使用法について共通理解ができた。
- ・本研究の成果を，全県に発信できたことも大きな成果としてあげられる。

2 課題

- ・言語活動，タブレット活用をより有効にするために，また自分で「分かってできる」を実感させるために，技のポイント，見る視点を明確にさせること。
- ・これまでより一歩進んだタブレットの使用法。
- ・子どもたちに必要な技能を身につけさせるために，理論を学び，タブレット等の利用や言語活動を仕組むこと，場の工夫など，授業の組み立てを工夫したい。
- ・研究1年目ということもあるので，研究の成果や課題をしっかりと積み上げ，次の研究，実践に繋げていくこと。
- ・集団づくりの要素も，体育科に課せられた重要な要素になっていると思われる。今後も，仲間との交流（学び合い・教え合い）を意識しながら，指導のあり方を研究していきたい。
- ・今後さらに高い専門性に触れ，まず学び（部会員），解り易く，よりシンプルに広め（各校・他の先生方へ），より多くの子どもたちにとどけることをめざし，さらに深く研究を進めることが大切であると感じる。

（部長 内藤 健）